

< あなたの治療について >



血内-G 単独-q3w

今回の治療は、G 単独療法という治療法で、ガザイバ（G）という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間で1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を3週間（21日間）ごとに2回繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2-21日目
	アセトアミノフェン レスタミン (熱・アレルギーを抑える薬)	内服		お休み
	ガザイバ (抗がん剤) 1000mg/body	点滴 約25mL/時		

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなつてはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

特徴的な副作用について

ガザイバにおける

infusion reaction

「発熱、悪寒、悪心、頭痛、疼痛、そう痒、発疹、咳、虚脱感、血管浮腫」などの症状

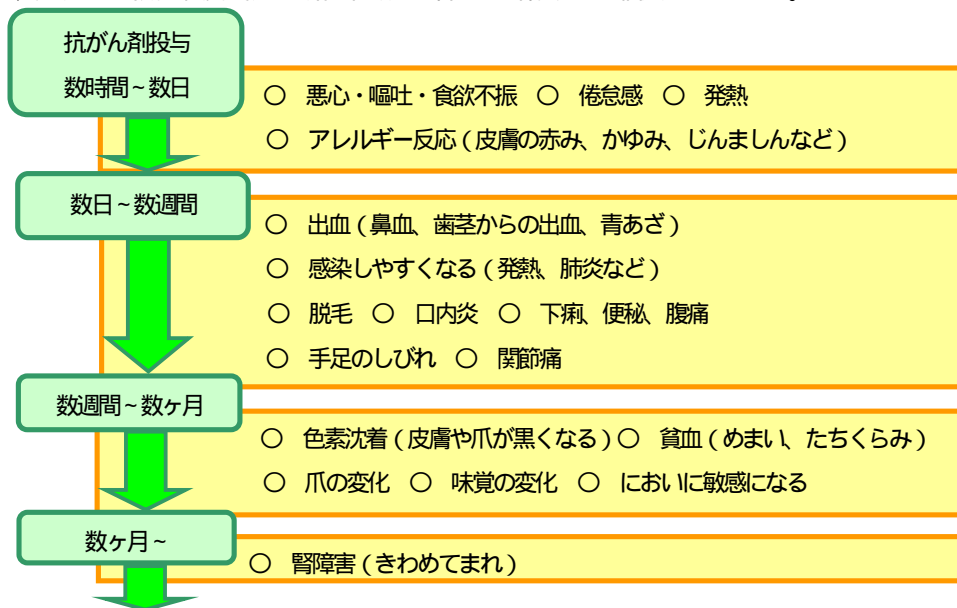
- * 血圧や脈拍などをモニターにて確認しながら点滴しますが、異常を感じた時はすぐに知らせてください。また、発熱、悪寒、頭痛等を軽減させるために、本剤投与の30分前に抗ヒスタミン剤、解熱鎮痛剤等を服用します。
- * 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



**薬品毎の副作用について(添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋)
まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。**

【ガザイバ】

<infusion reaction>呼吸困難、意識障害、まぶた・唇・舌のはれ、発熱、さむけ、おう吐、咳、めまい、動悸

<腫瘍崩壊症候群>意識の低下、考えがまとまらない、判断力の低下、尿量が減る、息苦しい、息切れ

<好中球減少、白血球減少>発熱、のどの痛み

<血小板減少>鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい

<感染症>かぜのような症状、からだがだるい、発熱、おう吐

<B型肝炎ウイルスによる劇症肝炎、肝炎の増悪>からだがだるい、発熱、意識の低下、考えがまとまらない、頭痛、白目が黄色くなる、吐き気、おう吐、食欲不振、羽ばたくような手のふるえ、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、判断力の低下、意識がなくなる

<進行性多発性白質脳症(PML)>意識がなくなる、しゃべりにくい、物忘れ、手足のまひ、考えがまとまらない、見えにくい

<心障害>めまい、胸がドキドキする、胸の痛み、気を失う、動くときの動悸、冷や汗、胸がしめつけられる感じ、胸が押しつぶされるような感じ、胸を強く押さえつけられた感じ、狭心痛、息苦しい、からだがだるい、全身のむくみ、横になるより座っている時に呼吸が楽になる、息切れ

<消化管穿孔>吐き気、おう吐、激しい腹痛

<間質性肺疾患>発熱、から咳、息苦しい、息切れ

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。